

---

# 無感の感情

白井クロ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無感の感情

### 【コード】

N1706U

### 【作者名】

白井クロ

### 【あらすじ】

少しだけ異変が起きたソープ嬢を感じる、自分。

ある日気まぐれに検査に行った。

陽性反応が、出た。

もう2度ほど同じ過程を繰り返したが、同じ結果。

さて、どうしたものか。

33歳、独身。職業、ソープ嬢。特筆事項・H V保持者。

この事を、もちろん誰に言うこともない。親にも同僚にもスタッフにも友人にも、知らせない。

たかだか自分の体に、とあるウイルスが住み着いただけのこと。でも、躊躇するのはなぜだろう。

私はとうに、生きている実感などない。自分が居なくなるうと誰にも関係のないことであるし、ましてや他人が居なくなるうとも、同じこと。

父親が2年ぐらい前に、病気で亡くなった時でも、世間でよく言われる「喪失感」なんてものはなかった。そのような家庭であったことも起因すると思われるが。

でも、このまま仕事を続けるのを躊躇するのは、なぜなのだろうか。とりあえずこの感情に従うことにし、しばらく休暇をとることにした。

いつもの休暇。だらだらとして寝て起きて食べて、を繰り返す休暇。のはずなのに。ドキンドキン、と心臓がなる。なぜだろうか。訳がわからずに気持ちが悪い。

増えるタバコの量。気分がすぐれないまま過ぎていく時間。

家に居たくなかった。明日は遠出をしようと思った。行く先は、少し考えたのち箱根となった。理由は近いから、それだけ。

出発の日はいわゆる「あいにくの」大雨。私にはおあつらえ向きだと、気にも留めずに出かける。

特急から眺める景色。田舎と呼ぶにふさわしい地域に達する頃には雨粒は少し小さくなっていくように感じた。窓ガラスと小雨を通して見る、山、木々、自然。列車のスピードを感じさせない存在感。不思議だと思った。そう思ったことが、もつと不思議に感じた。今までそんなこと、意識したことすらないのに。

箱根湯本駅に到着した時には、雨はかるうじてやんでいた。いつもと違う視界。建物はあれど、ビル群がない。でも、車、車、人、人……。ワイパーが緩やかに動く車たちが目の前を通り過ぎていく。自分が外界に居ることを認識した瞬間に、猛烈にタバコが吸いたくなった。日常と同じように、喫煙席のある飲食店を探す。幸いにも歩いてほどなくして見つかった。が、いつもと違う店構え。チェーン店ではない。少しだけためらいながらも、ニコチン欲求には勝てずに、店のなかに入った。

「ご注文きましたら。お呼びになって下さいね。」  
店員のおばちゃんのお、愛想のない言葉。そんなことは気にせず、とりあえずの一服。落ち着く。別に何かを食べたかった訳ではないので、コーヒーを頼んで、ぼうつとしていた。

隣のテーブルには、素朴な外見の3人家族。観光客なんだろうな。この父親と見られる男性も、風俗店なぞに来るのだろうか。そんな

風には見えないけれども。ちょっとした疑問がよぎる。仮に、今、彼にお金を渡されたら、私は彼と寝る。それが私の仕事だから。私にておって男性は皆そういう存在。どんな男でも金を支払った時点で、セックスが確定する。

ああ、そうか。私にとって男性は人間ではないのだ。すべてが客になりえる存在。私を犯しうる存在。

なぜだろうか、都会にはあまり見かけないような実直そうな男性を見て、そう思ってしまった。私の中のこんがらがった塊が、ほどけた気分がした。今すぐに帰りたくなった。コーヒーを半分残して、さっさとこの駅から自宅に戻った。

心は決まった。と、いうほどでもない。ただ、私はこれからも同じように働くだらう。何か攻撃的な感情がわいてしまったような、そんな気持ちだった。男性など、人間など、どうでも良い気がした。私は私が都合のいいように動くだけ。今までと同じように、私を都合よく使うヒトのことなど、気にしない。みんな、みんな同じように死ねばよいんだ。

明日の出勤をお店に伝える。これから私は、社会の害毒になろう。今までの私が浴びてきた視線、卑下したような表情。私はこれから、心の中で同じように彼らを見やるのが可能になったのだ。そうだ、だって私は彼らのうちの誰かからコレを渡されたのだから、私は何も気に病むことなどないのだ。人類みな兄弟、セックスすれば穴兄弟ってやつでしょ？兄弟なら一蓮托生、その他は知ったことではない。

そして、いつもと変わらない毎日。いつもと同じ。何も何もかもが変わらない。すべてが空を切るような手ごたえしかない。

ただ、過ぎず時間。一言、皆とんじり愁傷サマ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1706u/>

---

無感の感情

2011年10月9日06時43分発行